

# Nノコトダカラ構文の意味分析

益岡隆志

神戸市外国語大学

本発表の目標は、(1)のような構文(「Nノコトダカラ構文」と名づける)を考察の対象として取り上げ、その意味分析を通じて、叙述の種類(具体的には、「属性叙述」との関係、及び、構文のイディオム性のあり方を明らかにすることである。

- (1) 漱石のことだからひょっとすると世界的な学者として知られるようになったかもしれない。(水村美苗「日本語が亡びるとき」)

Nノコトダカラ構文の意味は、「Nの属性を根拠としてNについて帰結として推論できる事態を述べる」というものである(例えば(1)では、「漱石の何らかの属性を根拠として、漱石がひょっとすると世界的な学者として知られるようになったかもしれないということが推論できる」ことが表される)が、そこで問われることの1つは、この構文における「Nのこと」の部分がNの属性を表すのはどのような理由によるのかという点である。この問題に対して、本発表では、Nの属性という意味が「N+の+こと」という構成のあり方から得られることを示す。

問われるもう1つのことは、Nノコトダカラ構文が〈人物Nの属性PからNが関わる事態Sが推論される(「N,P,S」は変項)〉ことを表す構文イディオムとなるのはいかなる理由によるのかという点である。この問題について、本発表では、Nノコトダカラ構文に構成的意味の限定が見られ、そして、その意味の限定にはデフォルト値が関わる、ということ論じる。構成的意味の限定というのは、具体的には、「の」が所有の意味を表す、「から」が推論の根拠を表す、Nがこの構文全体の主題として機能する、という点に認められる。これらの限定は、「の」の意味のデフォルトは所有の意味である、判断の根拠を表す「から」のデフォルトは推論における根拠である、複文構文における主題は統一的主題がデフォルトである、という点に起因するものである。

キーワード：構文の意味、属性叙述、構文のイディオム性、構成的意味の限定、デフォルト値